

## 新潟市内の精神科訪問看護ステーションにおける業務上の課題把握調査（本調査）

### I 目的

新潟市における精神科訪問看護ステーションの業務上の課題や対応困難事例等の現状を把握し、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた精神保健医療福祉体制の充実のために必要な知識の提供やニーズに合った研修会企画等の一助とする。

### II 概要

#### 1 対象

新潟市内の精神科訪問看護ステーションに勤務する職員

※現在、新潟市の指定自立支援医療機関（精神通院医療）の指定を受けている精神科訪問看護ステーション（計55か所）

#### 2 調査内容

精神科勤務経験年数，対応において困難を感じていること，研修会等の希望など

#### 3 実施期間

令和5年1月～2月

#### 4 回答方法

新潟市のかんたん申し込みを用いた Web アンケート

### III 結果

#### 1 対象の背景

##### 1) 職種

	度数	パーセント
看護師	73	85.9
助産師	2	2.4
准看護師	2	2.4
作業療法士	4	4.7
その他	4	4.7
合計	85	100.0

## 2) 勤務先

	度数	パーセント
精神科のみ対応のステーション	9	10.6
一般科も対応のステーション	75	88.2
その他	1	1.2
合計	85	100.0

※その他:産前産後小児対応のステーション

## 3) これまでの精神科勤務経験

	度数	パーセント
病院・クリニック	80	58.8%
行政	5	3.7%
訪問看護	38	27.9%
経験なし	1	0.7%
その他	12	8.8%
合計	136	100.0%

## 4) 精神科の経験年数

	度数	パーセント
1年未満	20	23.5
1～5年	27	31.8
6～10年	18	21.2
11～15年	11	12.9
16～20年	4	4.7
21年以上	5	5.9
合計	85	100.0

## 2 業務上の困難

### 1) 利用者に対する業務上の困難

	度数	パーセント
コミュニケーション	47	20.3
精神症状や生活の理解	52	22.5
利用者の意思を尊重した生活再建の難しさ	52	22.5
服薬管理	40	17.3
限られた時間での対応	35	15.2
特になし	2	0.9
その他	3	1.3
合計	231	100.0

※具体的内容:

- ・内服を約束してきてもきちんと飲めない
- ・頻回に電話をかけてくる時期があった
- ・毎日の夜間電話
- ・内服薬を自己判断でやめてしまうことがあった。
- ・内服薬はいろいろ工夫したが内服薬の飲み忘れがあった。
- ・とにかく訴えを傾聴、一緒に考えていくようにしている
- ・どれもその人に合わせた対応をしている。関係構築が、大変な場合も、時間をかけるしかない。
- ・目標は高いが、達成に向けての動機づけがかなり難しい。
- ・訪問時に包丁を持って来て、興奮しており、恐怖を感じた。病院に入院をお願いしても受け入れてもらえず。在宅の状態を理解してもらえなかった。危険な為、訪問は終了とした。今でも、トラウマになっている。
- ・症状が良くなると訪問はいらないとと言われて対応に苦心した事があり。一回しか訪問していないが訪問しても良くならなかったと1時間以上電話で苦情言われ次の訪問も文句言われ結局訪問中止となった。
- ・過剰内服
- ・掃除や調理支援を一緒に行っているはずがいつのまにか依存され、退行欲求に繋がりやすい。

## 2) 家族に対する業務上の困難

	度数	パーセント
利用者との関係構築	47	25.8
家族関係の調整	40	22.0
家族の理解不足	45	24.7
精神的問題を抱える家族の対応	48	26.4
特になし	1	0.5
その他	1	0.5
合計	182	100.0

※具体的内容:

- ・薬を勝手にやめてしまう
- ・薬を勝手にやめてしまう家族が勝手に薬を中止したり減量したケースがあった。
- ・アルコール依存症の方の家族の対応
- ・家族も精神疾患の可能性が高い
- ・家族がいず、親戚の方が対応したが、高齢にて訪問するのが困難。理解力不足もあった。
- ・家族の対応の方法の確認と本人の思いを代わって伝える
- ・家族も精神疾患のようだが、自覚がなく、家族がクレマーのような感じになってきて業務以外の対応が増えて苦労した。
- ・家族が高齢で認知機能の低下あり、書類の不備がある。保管状況もわるく、紛失も多くてこまる。
- ・家電製品の購入に応じてくれなかったり、本人が連絡をとりにがらしない。
- ・家族も病識がない。家族も生活がだらしないことが多く、支援が必要なところが多い。

### 3) 連携に対する業務上の困難

	度数	パーセント
他職種との連携	31	22.3
医療機関との連携	60	43.2
関係機関との連携	31	22.3
特になし	17	12.2
合計	139	100.0

※具体的内容:

- ・体調変化時(興奮状態)に病院へ相談したが、その程度では受診できない、訪問看護で対応するように外来看護師に言われ、困ったことがあった。
- ・通所生活介護での受け入れの難しさ
- ・ケアマネと市役所の方が対応したが、主にケアマネへ相談を行った。
- ・家庭での状況、家族、本人の考え、思いを代わって伝える
- ・先生に連絡しても早急な対応がない。
- ・支援員と連絡が取れない事がある。
- ・医師との連携が難しい。報告に対する反応がないことが多い。

### 4) 地域の受け入れに対する業務上の困難

	度数	パーセント
地域住民の偏見・理解不足	33	30.8
社会資源の不足	53	49.5
特になし	20	18.7
その他	1	0.9
合計	107	100.0

※具体的内容:

- ・一人暮らしをする中で、精神に特化した、グループホームに入所にあたり、地域住民の理解に難渋していたケースがあった
- ・環境を、整えて退院させてもらいたかった
- ・隣の家の方に時々様子をみてもらっていた。
- ・地域の中で偏見が存在している。
- ・デイサービスなど、日中活動をしたいが、移動手段がない事がある
- ・地域活動支援センターの数が足りない。
- ・送迎がない A 型作業所が多く自家用車がないと本人の向上に繋がらない。
- ・新潟は自家用車がないと不便なことが多く、バスの本数や路線も少ない。
- ・自宅の場所によっては買い物さえも 1 人では行けない人が多い。

## 5) 職場環境に対する業務上の困難

	度数	パーセント
人員体制の不十分	47	34.3
勤務・拘束時間の長さ	19	13.9
給与・手当の不十分	36	26.3
職場の人間関係	14	10.2
特になし	20	14.6
その他	1	0.7
合計	137	100.0

※具体的内容:

- ・訪問以外の業務、連絡が多いため時間が不足する
- ・24時間の電話対応が苦痛。
- ・特定の利用者からの頻回な電話で、他の業務ができなかった。
- ・担当者で意見交換、情報共有のため時間帯をあわせることが難しい
- ・対応症例が少なくスタッフの経験値が浅い為、困難事例への介入に不安がある

## 6) 自己研鑽に関する困難

	度数	パーセント
専門的な学習機会がない	38	37.3
訪問看護師が相談する場がない	29	28.4
特になし	30	29.4
その他	5	4.9
合計	102	100.0

※具体的内容:

- ・平日は仕事、休日は家族との時間としたいけど、休日の勉強会が多く、なかなか参加できない
- ・オンラインでの学習会もあるが、平日の日中だとなかなか、業務の中に、勉強会に参加する余裕がない。
- ・精神科病院 MSW との顔の見える関係作り研修会
- ・精神科研修会を受講した。
- ・専門看護師に相談でき、アドバイスなど欲しい